やってみましょうや！

ふれあい かわら版 第8号

2018年（平成30年）
5月12日

ライオンズクラブ国際協会 335-D 地区キャビネット　〒670-0932 姫路市下寺町 43　姫路商工会議所新館 3F
TEL 079-281-8444　FAX 079-281-8421　http://www.lc335d.gr.jp

光…感動そして感謝

光をありがとう！
見える事の嬉しさ！
見える事に感謝！
見える事の感動！

献眼特集！

「光をありがとう」

兵庫アイバンクにお寄せ頂いた献眼をお受けになられた方と、献眼登録され献眼を実施されたご遺族な方の投稿を御紹介いたします。

角膜移植を受けられた方の喜びの声

伊藤信夫様

約10年前に両眼の白内障手術を受け、その際に右目の角膜内皮細胞が正常値の1／10以下しかなく「いずれ角膜移植を必要とする時期が来る」と言われていました。その後も継続して眼科治療を続けてきましたが、徐々に右目の視力が落ち、眼圧も上がり、掛かり付け医のご紹介で約2年前から神戸大学医学部付属病院の眼科で治療を受けることになりました。そして、その後兵庫アイバンクに角膜移植の待機登録をさせて頂きました。

誠に申し訳ないことですが、それまで「移植」「アイバンク」という言葉は承知していましたものの、それが「直接自分とは関係のない遠い存在」のような気がしていました。ところが、待機登録をしたことにより「直接自分のこれからの一生に重大な関わりのあること」へと気持ちが変化していました。また「どなたかがお亡くなりになることによって、自分が救われるということでよいのだろうか？」という根源的な問題にも悩みました。しかし、どなたかの善意にお助け頂くことで自分が生かされることに感謝して、その時を待つことにさせて頂きました。

期間としては、登録後2年から3年程度と言われていたので、こんなに早く手術の日を迎えることが出来るとは思っていませんでしたが、兵庫アイバンクから電話を頂き、急遽翌日に入院・手術を受けることになりました。

お陰様で主治医の先生はじめ、多くのご関係者の手厚い治療・看護で無事に移植手術をして頂くことが出来、その後順調に回復し、通常の日常生活を送ることが出来るまでになりました。

改めて献眼して下さったお方様、並びにご遺族の方々に衷心から有難く厚く御礼申し上げます。また、手術をして頂いた主治医の先生・看護師・アイバンクの方々にも深甚なる謝意を申し上げます。有難うございました。

献眼者・ご遺族の方々の善意・ご理解があって新しい光明をいただくことが出来、これからはその方々の善意に日々感謝しながら、自分の人生を全うさせて頂きたいと考えています。

多くの方の善意、並びに素晴らしい医療技術のお陰で頂いた「光」、改めて深く感謝申し上げます。

古本 雅之様

これからも頑張って生きていこうと強く思いました。

私は昨年、尊い角膜を頂き移植手術をしていただきました。まだ日にちは浅いのですが、順調に回復しております。角膜をくださいました方、そのご家族の皆さまありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

私は4月に70歳を迎えますが、今回は2回目の手術となりました。

1回目の手術は35歳の時です。右目に異常を感じたのはその3年前、真っ赤な充血と痛みでした。

神戸大学病院に通院して治療を受け「角膜ヘルペス」と診断され、治療に長い期間が掛かるとわかりました。

勤め先に迷惑をかけることになりましたが、4か月余り休職して治療に専念しました。

その後、症状が落ち着き仕事に復帰しましたが右目の視力が大きく低下し左目に頼る不自由な日々が続きました。

家庭では二人の子供がまだ幼く、家族の将来にも不安を覚え気分も沈みがちな毎日でした。

そんなある日、先生より角膜移植のお話を頂きました。

3年近く待機して角膜を頂けることになり、移植手術を受けました。

手術は局所麻酔で行われ、室内の音や会話が聞こえて緊張したこと、また長時間動かずにいることがきつかったことを思い出します。

手術後も動かないよう頭を固定されて大変でしたが、診察を受けるたびにハッキリと見えてきてとても嬉しかったです。

右目が光を失いかけた恐怖心・失望感から解き放たれて希望の光が見えた思いでした。

角膜を頂けたことが嬉しく、これからも頑張って生きていこうと強く思いました。そして頂いた角膜は長い間私を支えてくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

35年の間私の生活を守ってくれた角膜ですが、数年前から角膜の弱りと白内障が重なって視力低下が進んできました。そして、今まで頼ってきた左目にも白内障の症状がでてきたため、再び不安な日々を送ることになりました。

これからの事を思うと「手術しなければどうなるのか？」「右目は再手術が可能な状態か？」など心配なことばかりでしたが、先生に角膜の再移植について相談させていただきましたところ「手術は出来ますよ」と詳しく説明を頂き、2回目となる手術をお願いしました。

今度の手術は全身麻酔で行われ、3時間後には病室のベッドの上でした。

前回と違って体の固定は無く、しばらくの間安静にした後は、普通の動作・行動が許されて驚きでした。

これも医療技術の進歩、携わる先生方のお陰によるものと感謝の念にたえません。

お陰さまで、とても良く見えるようになり喜んでおります。**角膜をご提供くださいました尊いご遺志に感謝を忘れず、大切にしてまいります。そして、残された人生を少しでも社会に恩返しできるよう頑張ります。**

最後になりましたが、神戸大学病院の先生方、看護師の皆様、兵庫アイバンクの皆様、大変お世話になりました。

有難うございました。

角膜提供をされたご遺族の方の声

尼寄 領一様

「生命のバトンタッチ」をすれば、もっと優しい社会になるはず。

平成25年1月4日に父は市民病院にて78歳で天国へ行きました。父は、とても優しく、面倒見の良い人でした。母を愛し、僕といもうと兄弟3人を愛情持っていつも笑顔で冗談話をする人でした。

父が生前よく言っていたことがあります！「俺が死んだら、目でも耳でも腎臓でも肝臓どこでもええから使えるところは使ってもええで！俺は死んでいるねんから何も思わないし、痛くもない！困っている人がいたら、おれのんでよかったら使ってほしい！」この言葉を思い出し、市民病院の先生に相談したところ、「眼の角膜の提供が出来る。」と言っていましたので、僕は、迷わず父の目を兵庫アイバンクに提供することを決意致しました。そして、コーディネーターの渡邉さんに来て頂き、眼球提供をしました。渡邉さんは仏様になった父に、大きな声で「黙祷！」と言い、合唱してくれました。僕はあの時の風景を今でも忘れません！大変感謝しています。

無事に父の眼球は摘出され、義眼を入れて頂きました。

本当に父の顔は仏様のように美しい顔と姿でもありました。

人は必ず死がきます。その時自分の体の一部でも今困っている人がいれば、「生命のバトンタッチ」をすれば、もっと優しい社会、もっと人間らしく終われると私は思っています！このことをもっと多くの人に知って頂きたいのと協力をしてほしいと心から思っています。

僕も、車やバイクをよく乗るので、是非生命の終わりが来たのなら、使える臓器、目など使える所は、次の方へと「生命のバトンタッチ」をしたいと思います！またそこで人の役に立てることを人としての誇りと考えています！

天国のお父さんへ

「あなたの目は次の方の役に立っているよ！立派だよ！本当の優しさを見せてもらったよ！ありがとう！」

僕も、自分の命に何かあれば一緒のことするからね！

合掌！

父の献眼を経験して

小畑 美由紀様

父が献眼に至ったきっかけは、私が参列した近所のおばあさんのお葬式でした。

おばあさんは、誰かの役に立ちたいと生前から言っておられ、大屋ライオンズクラブの勧めでアイバンクに登録され、角膜を提供されたことを知り、おばあさんの崇高な考えと家族の受け入れに対し大きな感動と衝撃を受けたことを今でも覚えています。

おばあさんの葬儀終了と同時に、さっそく近所の大屋ライオンズクラブの方にお話を伺い、私もぜひ協力したいと申し出ました。その時に大屋ライオンズクラブは目の不自由な方に光を与えてあげるために、アイバンク登録者を募る活動を積極的に行っていることを知りました。

私は保健師をしており、私の死後に体が役に立つのであればと思い、臓器提供意思表示カードも早くから整えていましたが、家族への勧めまではしていませんでした。

このたび大屋ライオンズクラブの方の積極的な勧めにより、私自身のみならず家族間で角膜提供について話をする機会を持つ事ができ、父も賛同してくれました。

そうこうしているうちに父の具合が悪くなり、医師からは入院も勧められましたが、父は家で死ぬと言いきりました。家族として父の最後の望みをかなえてあげようと主治医と共に在宅での看取りを決めました。

死期が近づくにつれ、角膜提供のことが頭に浮かび、担当看護師にも相談しましたが、「面倒なことが多いから断ったら。」と言われ、私自身も（眼球摘出は医療行為だから在宅で亡くなってもきっと病院に遺体を搬送して、病院で眼球を摘出するんだろうなぁ、死んでからそんな

ことまでするのは面倒やし、こんなことは病院で亡くなる人しかできないことなんや。）と思い、やっぱりそんな面倒で大変なことはやめようかという気持ちが頭をよぎりました。

そこで、半ば断るつもりでライオンズクラブの方へ連絡を入れたところ、「**眼球摘出は家でできる。夜中でもいつでもアイバンクの人が待機していて医師と連絡して家まで来てくれるから亡くなったらすぐ連絡したらいいし、せっかくお父さんが意思を示しているのだから、ぜひその思いを受けて提供してほしい。また神戸から来られるので時間がかかるけど、角膜が乾燥しないように濡れたガーゼなどで瞼を覆ってもらっていたらいい。**」とのアドバイスをいただき、てっきり近くの病院ですると思っていたので、家でできると聞き、目からうろこ状態でした。

それなら父の意思を受け止め、目の不自由な方のために父の角膜を提供しようと、家族も気持ちが固まりました。

その日の夜中に父は亡くなり、本当に夜中で申し訳ない気持ちもありましたが、ライオンズの方の心強いアドバイスのおかげで、迷わずアイバンクの方へ連絡を入れさせていただきました。

実際には家に到着されるまでに思ったより時間はかかりましたが、家での眼球摘出に、私も母も立ち会い見学までさせていただくなど、病院で亡くなった方にはできない経験もさせていただきました。**摘出後も義眼を入れ、瞼の縫合により外見では摘出したことはわからない状態にしていただけました。**

摘出にあたっては、遺族への意思確認、感染症がないかを見るための血液検査、眼球摘出と最後の仕上げなど、一連の作業には約1時間半程度かかったように思いますが、悲しみよりも誰かの役に立てたことや父の思いを果たすことができたという満足感がわいてきました。

今回の父の献眼を経験して感じたことは、具体的な献眼の仕組みはまったく知らないということ、誰かの後押しがないと登録や実際の献眼に至るには難しいこと、医療関係者の看護師でもやめる方向にアドバイスをしてしまい、本人や家族の意思をぐらつかせることもあるということです。でも逆に、父の葬儀終了後、お寺さんが「お父さんはええことしなったなぁ。わしもさっそく登録するわ。」と言ってくださり、私が感銘を受けたように葬儀に参列された方にも登録の輪が広がっていくきっかけにもなるということです。

私の場合には大屋ライオンズクラブの方の積極的な後押しがあったことで実際の献眼に至ったわけですが、アイバンク自体も職員は少なく、啓発や身近な個々人へのかかわりには限界があると聞いています。

今後はこのような実際の経験を広く多くの方に知っていただき、一人でも多くの方がアイバンク登録されるとともに最終的に実際の献眼に至るよう、微力ながら協力をさせていただきたいと思います。

仏壇の前の多くの感謝状を見るにつけ、父の残してくれた崇高な遺志に改めて思いを馳せるとともに、**どこかで父が誰かの目となり元気に生きていると思いながら**、本人及び家族が満足できる最期が迎えられたと感謝をし心穏やかに過ごしているこの頃です。

兵庫アイバンク副理事長
兵庫県眼科医会会長
加古川東ライオンズクラブ
平松邦夫

角膜を差し上げるということは自分が生き続ける事

兵庫県内のライオンズクラブA地区とD地区と兵庫県眼科医会とが共同で平成六年に設立したのが公益財団法人兵庫アイバンクです。角膜移植で差し上げる方といただかれる方との橋渡しをしています。角膜移植の登録をされておられる方がご不幸となられたり、されておられなくてもその時に御連絡をいただければ、兵庫アイバンクのコーディネーターが眼科医師と一緒に御家にお尋ねして眼球をいただき、すぐに移植を必要とされておられるお方に角膜を移植する手術をいたします。

現在角膜の移植を必要とされて順番を待っておられる方は、一年や二年あるいはそれ以上待っておられます。どうしても待ちきれなくてしかも多額の費用が掛かっても構わない人は、輸入角膜をいただかれています。現在日本人同士で角膜移植がなされているのは半分を切り、アメリカから提供された輸入角膜のほうが半分を超えています。この現状はお互いに同胞を助け合うべきとの観点からは問題が残ります。

ご本人が角膜移植の登録をされていてご不幸になられた場合でも、その場でご遺族の反対にあえば眼球をいただくことは出来ません。眼球を差し上げた場合、目はへこむことなくきれいに縫い合わされて外見上は元のままになります。少なくとも見た目の支障はありません。

不老不死は古今東西皆の願いでありました。もちろん人生には限りがあります。からだが朽ちてゆくときに角膜を他の元気なお方に移植すれば、一部とはいえ他のお人の身体を借りて自分が生き続ける。とも解釈できます。自分の角膜を他の人に移植するということは、自分が無くなった後も、自分の目は他の人の身体を借りて物を見続けてゆく。なんとすばらしいことではないでしょうか。角膜移植の意義をもう一度考え直してみたいものです。

ご連絡は、公益財団法人 兵庫アイバンク
TEL 0120-69-1010

アイバンクについて
公益財団法人兵庫アイバンク
事務局長兼コーディネーター
渡邉　和誉

アイバンクとは、角膜移植によってしか視力を回復できない患者のために、死後、眼球を提供することに本人または遺族の同意を得て、移植を待つ患者に斡旋する公的機関のことをいいます。

日本でのアイバンクは、厚生労働大臣の許可を受けて運営される「眼球あっせん業」を得て活動し、日本全体に54行あります。そのうち、兵庫県下については公益財団法人兵庫アイバンクが中心となって活動しています。

このいのちの架け橋について、24時間365日体制で対応するのがコーディネーターの仕事です。現在2名のコーディネーターで提供のご意思を尊重できるように活動しています。

移植するのは角膜ですが、提供していただくのはあくまで眼球となります。

一番気にされるのが、提供後どのような状況になるかですが、義眼を入れさせて頂きますので、安らかなお顔に戻すことを一番に心がけて対応しています。

アイバンクに眼球を提供することを献眼といいますが、献眼に事前の登録は必要ありませんが、アイバンクに献眼登録を行なうと献眼登録者カードが発行され、これを携帯することで自らが献眼の意志があることを示すことができます。また臓器提供意思表示カードや運転免許証、保険証などでも同様に意志を示すことができます。しかし献眼は本人の意思表示があったとしても、家族の同意がない場合はできませんので、事前に家族と十分話し合う必要があります。また逆に本人の意思表示が無くても家族がその意思を推し量り提供することも可能です。

是非、今一度眼球提供という「いのちの架け橋」について考えて頂けませんでしょうか？

登録だけに終わらせないアイバンク

335－D地区献血・視力等社会貢献委員長　今里朱美

ライオンズクラブの重要な奉仕活動の一つに視力ファーストがありますメガネのリサイクルや、盲導犬支援、等々に尽力頂いているライオンズクラブもありますが、今回取り上げるのは献眼です。今年に入って、2つのお願いをしました。

①アイバンクの活動と献眼の実際についての再認識を図るために、学習会をクラブ例会にて行って下さい。

②すでにアイバンク登録されているメンバーについて、亡くなられた場合のフォローを行って下さい。

お恥ずかしい話ですが、献眼という言葉は知っていましたが、アイバンクも活動はよく知りませんでした。献眼そのものについても、他の臓器移植とは違って、死後24時間以内摘出し、義眼を装着していいただきますが、どのように行われるのか、ということを知りませんでした。献血においても、ルーチンとして勉強会を行っていただき、時々思い出していただくこと。そして新メンバーへの勧誘を行って下さい。

また、アイバンクに登録されているにも関わらず、その意志が活かされないままに終わっていることです。献血のように常に血液を集めるのとは違って、献眼登録をされたライオンズメンバーが、献眼をされるだけで、角膜移植を望まれる患者数を充足できるということです。現在全国に移植を待っている方は約5千人で、兵庫県に限れば約170人と聞いています。登録するだけでは、何の役にも立たないと言うことです。

なぜ、遺志が生かされないのか。いくら本人が望んでいても、献眼の実行にはご家族の理解と速やかな行動が求められますが、亡くられた悲しみや葬儀に至る準備に意識が向いてしまうからだと思われます。そこで、一言「献眼はどうされますか？」と声をかけることも必要でしょう。その役割は訃報をいただいたライオンズメンバーしかできないことです。

さて、もう一つ驚いたことには、**角膜は老化しないということです。**何歳までしかできないのではなく、**何歳でも行える**ということです。献血では若年層への呼びかけをお願いしましたが、ぜひ高齢者への呼びかけを行って下さい。人生の終わりに近づいた中で、身の処し方を考えられると思います。元気なうちに終末を考える中で、葬儀を決めるように献眼を考えてもよいのではないでしょうか。

再生医療の進歩で、いつか角膜もつくることができる時代が来るでしょう。それまで視覚を失ったり、見えにくさに苦慮されている人々にとっては、日々待ち望んでいることでしょう。ライオンズメンバーの登録と確実な履行への取り組みと、お願いいたします

献眼登録のお願い

公益財団法人兵庫アイバンク副理事長　三木中央LC　有野　勇

全国で目の見えない方が約35万人兵庫県下にも約2万人おられると推定されております。

原因は様々ですが約5%の方が角膜移植で視力が回復することができます。

（財）兵庫アイバンクは角膜を提供していただく方と必要とされる患者さんとの間を結び、角膜移植が円滑に行われるよう活動しています。

眼球（角膜）の提供に年齢制限はありません。近視・遠視・乱視・白内障・老眼の方もご提供いただけます。

登録の際に、検査などは一切必要ありません**白内障など手術後の眼球でも登録して頂けます。**

眼球（角膜）の提供は**心肺停止後12時間以内、**出来るだけ早くの摘出が望ましいのです。

※アイバンク登録者が減少しています。

移植待機患者数が増加している現状もありご協力をお願いします。

★献眼への環境づくりとして

※提供ご家族の理解と協力へのPR

※献眼登録者の募集拡大

※献血と併行してのPR運動